

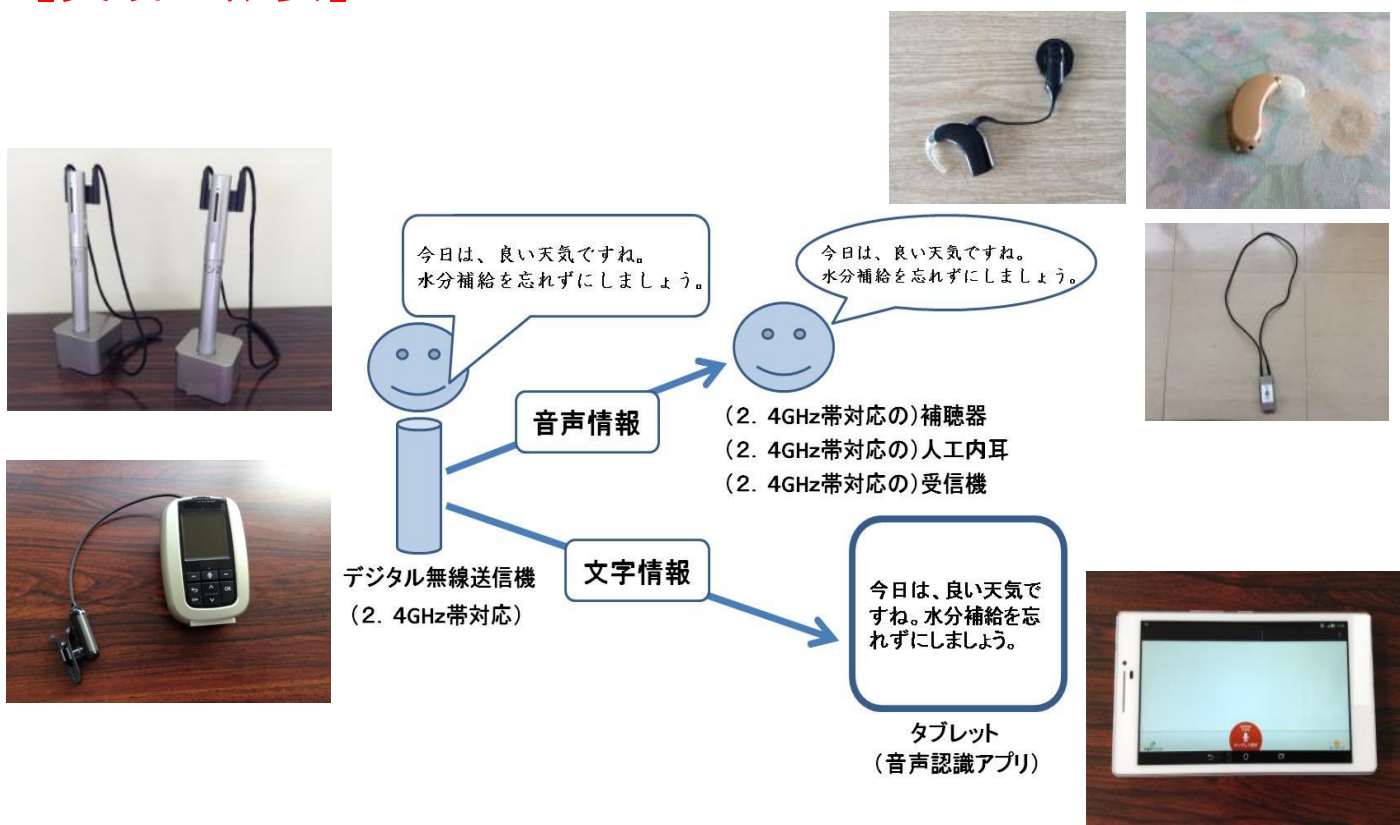
# 主体的なかかわり合いを育むコミュニケーション手段の活用 ～聴覚障がい教育におけるデジタル無線補聴システムと音声認識アプリを用いた実践～

平成28年12月  
山形県立山形聾学校  
自立活動部

この実践は、公益財団法人パナソニック教育財団平成28年度(第42回)実践研究助成を受けて取り組んでいます。これまでは、情報を伝える側に情報内容や情報量を依存してきましたが、この実践を通して、必要な情報を自分が受け取りやすい方法で、正確に受け取る方法を拡げられるようにしていきたいと考えています。

そこで、この実践の目的を「自分に必要な情報を、自ら受け取る手段の確立」としました。

## 【実践の概要】



## 【実践のポイント】

1. 校内でも校外でも、よりはっきりとした音声情報を聴き取ることができるシステムを採用しています。  
※2.4GHz帯を使用したデジタル無線方式の補聴システム(デジタル無線補聴システム)です。  
※FM補聴システムとは異なります。
2. 文字情報を音声情報と同時にリアルタイムで読むことができます。  
※デジタル無線補聴システムの送信機と、タブレットPC内の音声認識アプリを連携します。
3. 本校を卒業した後も、社会で活用することができます。